

日時：2024年12月1日（日）17:00～19:00

実施方法：オンライン会議

日本パーソナリティ心理学会第160回常任理事会議事録

出席：尾見康博理事長，松田英子副理事長，小塩真司，森 津太子，田中麻未，
外山美樹，武田美亜，川本哲也，中村 真

報告事項

I. 理事長挨拶

II. 各種委員会報告

1. 機関誌編集委員会（小塩委員長）

(1)機関誌掲載情報

第33巻2号 2024年11月発行予定（2024年8月末までに採択された論文）

原著4編，ショート6編

ショート	メンタライジングによる抑うつ・不安の低減効果—アイデンティティを媒介変数としたモデル検討—	柴田 康順
ショート	中学生の過剰適応と自律性の欲求充足及び欲求不満の関連	風間 惇希
原著	刑事司法に対する態度と経済的不安の関連	向井 智哉
ショート	日本語版仕事の先延ばし尺度の作成	黒住 嶺
ショート	過敏型自己愛傾向が自作品に対する他者からのフィードバックへの反応に及ぼす影響—SNS上における創作活動に着目して	有海 春輝
ショート	明晰夢を想起しやすいパーソナリティ特性—中国人大学生を対象としたBig Fiveとストレスコーピングスタイルからの検討	施 竣訳
原著	受容的他者の視点取得を伴う筆記開示が自己受容と精神的健康に与える影響	足立 英彦
原著	感覚処理感受性の高い日本人大学生に対する休憩を伴う—過性の運動による急性の心理・身体的効果	南宮 怜
原著	日本語版Dispositional Attitude Measure (DAM-J) の作成	藤野 真行
ショート	孤独感に対する愛着スタイルと性別の交互作用	富井 蘭

第33巻3号 2025年3月発行予定（2024年12月末までに採択された論文）

原著3編，ショート9編（うち事前登録研究，事前登録追試研究各1編）

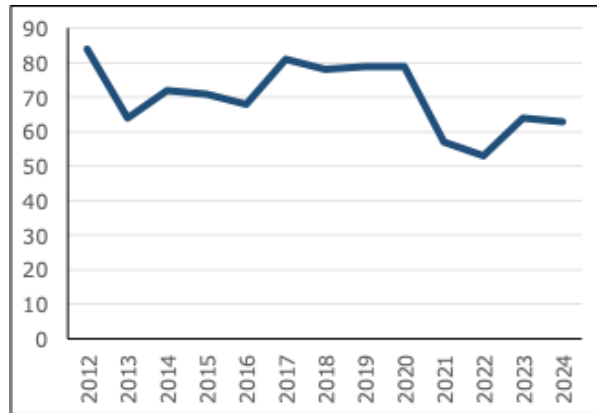
※以下の資料作成後、ショート2編が追加になったとの報告があった。

ショート	小中学生の学力とGritの関連—遺伝環境構造から	山口 天音
ショート	日本人大学生における空想傾性とBig Fiveパーソナリティの関連	山崎 有望
原著	刑事司法に対する態度，政治的志向性，道徳基盤の関連	向井 智哉
ショート	児童の倫理的罪悪感の発達的变化と向社会的行動との関連	越中 康治
ショート	項目反応理論を用いたゲーム障害尺度の適用範囲の検討	海野 利文
事前登録研究（ショートレポート）	事前登録研究：Big Fiveの再検査効果—参加者間・参加者内計画を用いた検討	上田 卓介
事前登録追試研究（ショートレポート）	事前登録追試研究：愛好家サブカテゴリーを意識することはギャンブラーへの潜在的態度を変容させるか？	小野島 昂洋
原著	恋愛関係におけるアタッチメントの無秩序性を測定する試み—日本語版成人無秩序型アタッチメント尺度	中尾 達馬
ショート	成人アタッチメントの無秩序性と恋愛関係内の暴力（加害）との関連性における性差	中尾 達馬
ショート	大学生における過剰適応と自己意識及び被影響性との関連	亀山 晶子
原著	目標追求時の動機づけを高めるには？—進捗モニタリング，目標追求段階，サブゴールに着目して—	大澤 かりん
ショート	日本でも誘惑対処方略の使用は意志力に頼るよりもセルフコントロールが苦手な兆候と見られる—Gennari	後藤 崇志

(2)編集状況

2024年11月現在の投稿状況は，以下の図表に記載の通りである旨の報告があった。

年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ	投稿時不採択	投稿数
2023							
1	0			0	0	0	5
2	2			2	0	0	5
3	7			1	0	0	5
4	2			1	0	0	8
5	4			3	0	0	2
6	1			0	1	0	7
7	3			2	1	0	3
8	2			3	0	0	4
9	4			1	0	0	5
10	1			1	0	0	11
11	1			0	0	0	8
12	5			3	0	0	1
計	32	0	0	17	2	0	64
年月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ	投稿時不採択	投稿数
2024							
1	2			0	0	0	6
2	5			2	1	0	3
3	1			3	0	0	9
4	2			4	0	0	6
5	3			3	0	0	7
6	1			2	0	0	12
7	3			3	0	0	3
8	4			3	0	0	4
9	2			1	0	0	4
10	8			1	1	0	7
11	2			1			2
12							
計	33	0	0	23	2	0	63



2 経常的研究交流委員会（森委員長）

(1)第 33 回大会の企画について

以下の通り、開催を終えた旨の報告があった。

- ・企画シンポジウム 10月5日（土）13時30分～15時30分

『ソーシャルメディア時代 – パーソナリティ研究から何が言えるか –』

<話題提供>

太幡直也先生（愛知学院大学）、鈴木千晴先生（立命館大学）、

黒川雅幸先生（愛知教育大学）

<指定討論>

中山満子先生（奈良女子大学）

- ・MPP企画 10月6日（日）11時30分～12時30分

『これくらいでいいんじゃない？ – 心理学の授業の進め方 –』

(2)大会外企画

2025年3月に実施予定で、現在検討中との報告があった。

(3) Summer School of Personality Science 2024 (SSPS2024) への派遣

以下の通り、派遣報告と今後の募集予定について説明があった。

主催：European Association of Personality Psychology (EAPP)

会期：2024年7月29日～8月4日 会場：ベルリン（ドイツ）

費用：参加費は無料、サマースクール中の滞在場所と食事（朝・昼）は無料で提供。金銭的補助として、日本パーソナリティ心理学会から5万円を支給（振込済）。

※報告書を「パーソナリティ研究」に掲載予定、今後も隔年で参加者を募集。

(4)国際学会に関するアンケートへの回答について（日心連からの依頼）

別紙依頼について経常的研究交流委員会において検討した回答案が示され、審議の結果同案が承認された。

3 広報委員会（川本委員長）

(1) 定例の活動（2024/7/13 から 2024/11/26 まで）

ウェブサイトの更新（2回）、メールニュースの配信（24回）、ML 上での業務調整などの活動内容が報告された。

(2) 今後の活動予定（継続を含む）

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信（随時）、委員分担コンテンツの更新、2025 年度からの新規委員のリクルートを行っていくことが報告された。

4 褒賞関連事項（外山褒賞担当常任理事）

(1) 学会賞受賞者への賞金振り込みについて

詫摩武俊賞（優秀論文賞）受賞者（第1著者）、奨励論文賞受賞者（第1著者）に副賞として賞金を振り込んだ旨の報告があった。

(2) 第33回大会を終えての意見交換

第33回大会では、優秀大会発表賞候補者の発表時間・投票時間を2時間としたが、拡大する必要があるのではないかと意見が寄せられた。次回以降については、大会主催校との相談で決めることを申し合わせた。また、同賞の第2次選考の開票方法について確認が行われた。さらに、同賞に大学院生、大学生を対象とする「若手優秀大会発表賞」を設けてはどうかとの意見があり、褒賞担当常任理事のほうで継続検討することを申し合わせた。

III 日本心理学諸学会連合（尾見理事長）

12月22日に次回の社員総会がある旨の報告があった。

IV 第33回大会の報告（外山準備委員長）

参加人数が計327名（正規参加者310名＋名誉会員2名＋非会員の登壇者10名＋その他5名）、ポスター発表3件が取り消された（J-Stageに公開される論文集からは抄録を削除する）との報告があった。併せて、別紙に基づき、大会の収支報告があった。

また、別紙に基づき、次年度以降の大会企画に関するアンケート結果の報告があった。

第33回大会で『日本パーソナリティ心理学会20年史』の残部を配布したところ、32冊を会員の方がお持ちいただいたとの報告があった。在庫93冊の取り扱いについて審議した結果、一部を第34回大会に申し送り、残りを溶解処理することを申し合わせた。

審議事項

I 心理学検定局運営委員の任期満了に伴う後任者の推薦について（追認事項）

田中事務局長より、日本心理学諸学会連合から心理学検定の「運営委員」の推薦依頼があり、尾見理事長からの推薦により、武田美亜先生に打診し、承諾を得られたため推薦の手続きを行った旨の報告があり、これを追認した（常任理事会 ML にて承認済み）。

なお、任命にあたっては、日心連側の事情（科目バランス、ジェンダーバランス、世代バランス、継続委員と新規委員のバランスなど）で任命されないこともあるとの補足説明があった。

II 国立大学教育研究評価委員会等専門委員の候補者の推薦について（追認事項）

田中事務局長より、国立大学評価室から国立大学教育研究評価及び大学機関別認証評価の実施にあたり実際に評価を担当いただく標記専門委員の候補者の推薦依頼があったこと、尾見理事長から松田英子先生（副理事長）が推薦され、常任理事会 ML 審議の結果、これを承認し、松田先生から承諾を得られたため推薦の手続きを行った旨の報告があり、あらためてこれを追認した。

III 第 33 回大会の優秀大会発表賞について

外山褒賞担当常任理事より、第 2 次選考の結果報告があり、審議の結果、以下の 2 件を優秀大会発表賞とすることを承認した。今後、受賞者に受賞と次年度大会懇親会招待の連絡をし、その後メールニュースで会員に報告することを申し合わせた。

- ・山形伸二・高橋雄介「知的謙虚さと経済的成功の関連は正か負か」
- ・澤田和輝・鈴木美樹江・高橋雄介「小中学生における日々の家族関係の軌跡は Big Five とどのように関連するかー1人1台端末を活用した強縦断データに基づく検討ー」

IV 第 34 回大会に向けた準備状況について

第 34 回大会の主催校を信州大学とすることを確認し、大会 1 号通信の内容および発送方法について大会準備委員会と常任理事会で共有しながら準備を進めることを申し合わせた。

V 「パーソナリティ研究」投稿規程、編集規程、投稿者用チェックリストの改訂について

小塩機関誌編集委員長より、別紙に基づき改訂案について説明があり、審議の結果、承認された。今後、会員への公開と運用開始に向けて準備を進めることを申し合わせた。

VI 財務関連事項（武田財務担当常任理事）

武田財務担当常任理事より、2025 年度予算案作成にあたり、基本的には前年度を踏襲することをベースに進めるが、各種委員会において 2024 年度から大きな変更希望があれば、1 月末を目処にお知らせいただきたい旨の提案があり、これを承認した。

VII 会員の入退会に関する件（田中事務局長）

田中事務局長より、別紙資料に基づき、入会希望者 21 名（うち、18 名は ML 審議にて承認済み）、退会者 1 名が示され、審議の結果、承認された。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2024 年 11 月 25 日現在、会員総数は 929 名である（今回、新規に入会が承認された 3 名は含まれない）。内訳は、一般会員 849 名、院生会員 62 名、学生会員 4 名、名誉会員 10 名、賛助会員 4 名である。

VIII 次回常任理事会の日程について

実施方法：対面開催

日時：2025年3月1日（土）14:00～16:00

場所：検討中

以上